



学校だより

青い鳥

平成27年度7月号

さいたま市立上落合小学校

平成27年6月30日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24

TEL 852-5381

<http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/> E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp

子どもの遊び

校長 片柳 正

学校の紫陽花の花が色鮮やかに季節の彩りを添えています。そして梅雨の晴れ間ごとに気温が上がり、夏を感じる季節となりました。

6月27日(土)梅雨空の中、第1回学校公開日を実施しました。大勢の保護者の皆様、地域の皆様の参観をいただき、本校の教育活動の一端をご覧いただくことができ、大変有意義な公開日となりました。改めて保護者、地域の皆様方の学校に対する関心・期待の高さを実感しました。ご協力していただきましたアンケートにつきましては、一枚一枚じっくり読ませていただきました。「子どもたちの楽しく学習している姿が見られてよかったです。先生方の丁寧な言葉かけが、子どもたちの笑顔に表れていて安心して学校生活を送っていることがわかりました。」の感想をはじめ、どのアンケートからも子どもたちの健全な成長を願う熱き思いと本校の取組に対する温かいご理解ご協力の程が伺えました。ご意見・ご要望等につきましても真摯に受け止め、今後の教育活動の改善に生かしていきたいと存じます。ありがとうございました。



さて、校庭を見ると子どもたちは、休み時間に様々な遊びをしています。鬼ごっこ、遊具遊び、ドッジボール等、夢中になって遊び、元気な声が聞こえてきます。こんな時、自分が子どもだった頃を思い出します。

道路でメンコやベーゴマ、キャッチボール、かくれんぼ、竹馬等、時を忘れて遊んでいた光景が重なってきて懐かしく感じる場合があります。あの頃の子どもの遊びは、校庭の他に道路がありました。そして、様々な年齢の子も一緒でした。それが、昭和の時代でした。

子どもの成長にとって子ども同士のかかわりは、人格を形成していく上で、とても重要です。その中で、最も深くかかわり合う時間が「遊び」の時間だと思えます。その遊びの中で子どもたちは、楽しさを知るとともに、協力し合ったり、競争相手になったり、共感したり、対立したりしながら集団におけるルールを形成していきます。つまり、子どもは遊びを通して、自主的な行動をとり、問題にぶつかっても自ら解決していく行動を身に付けることができると考えます。このような力は、まさに「社会性」であり、将来、「社会に出て生きていくための力」の基礎になると考えています。

現在、子どもの遊びは、昔に比べると量的にも質的にも大きく変化してきました。学校から帰って「道路」で遊ぶ子は、まずいません。もちろん遊べるわけがありません。社会の変化が子どもたちの遊びを変えてしまいました。家に帰ったら、屋内や公園のベンチに座り込んでゲーム機で遊ぶ子どもが増えました。このような状況では、子どもの成長にとってマイナスに働くこともあると考えます。先日の館岩少年自然の教室では、テレビもゲームもない中、自然と触れ合い、そして友達とのかかわりを通して、社会性を学びました。子どもたちが、これからの社会をたくましく生きていくために、「人とかかわり合うこと」と「遊ぶこと」は欠かせないものです。大人が遊びのもつ大切な意味を十分に理解し、今の時代、難しいかもしれませんが「遊び場」と「遊ぶ時間」を与えてあげることが必要だと思えます。そして、学校、地域、家庭が知恵を出し合って「遊び」という大切な文化を守り、子どもたちに遊びを実現させてあげられることを願ってやみません。まずは、放課後の校庭を子どもたちの遊び場として利用していただければと思います。

1学期も残り3週間となりました。まとめをしっかり行い楽しい夏休みを迎えたいと思います。

学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく

